

若手経営者との意見交換結果 (競争力の高い産業モデル)

①事前説明・ブレスト

基幹産業（機械・繊維・食品・I T）の若手経営者とともに、
競争力の高い産業モデルや、業界・会社の課題感、取り組みたいこと、
行政に求めることなどについてブレストを実施

- ▶ 若手経営者
30～50代前半の企業経営に携わる方
- ▶ 事前説明・ブレスト（オンライン開催）
（1日目）令和5年4月17日（月）
（2日目）令和5年4月19日（水）

②オンラインフォーマットへの共同書き込み

ブレストを踏まえ、共同での書き込みが可能なオンラインツールを活用し、
オンラインフォーマットに自由に意見を書き込み

- ▶ オンラインフォーマットへの共同書き込み
4月中旬～4月下旬

名簿（若手経営者との意見交換）

機械

氏名	企業名	役職
明石 隆史	(株)明石合銅	代表取締役専務
新家 啓史	大同工業(株)	代表取締役社長
柿木 貴子	馬場化学工業(株)	専務取締役
小林 靖弘	(株)小林製作所	専務取締役
塩谷 栄治	石川可鍛製鉄(株)	代表取締役社長
高松 宗一郎	高松機械工業(株)	代表取締役社長
土肥 憲太	土肥研磨工業(株)	専務取締役
徳野 新太郎	ヨシオ工業(株)	代表取締役
中川 幾美子	(株)中川鉄工所	代表取締役社長
山口 真輝	(株)共和工業所	代表取締役社長
山本 伊智郎	(株)サンエー精機	代表取締役

繊維

氏名	企業名	役職
荒木 重晶	(株)オリジナー・カズシヤガード	代表取締役社長
大宮 英嗣	(株)ムツミテキスタイル	専務取締役
梶 政隆	カジナイロン(株)	代表取締役社長
中山 大輔	小松マテーレ(株)	専務取締役
羽部 敏徳	丸羽経編(株)	代表取締役社長
宮本 智行	丸井織物(株)	常務取締役

食品

氏名	企業名	役職
数馬 嘉一郎	(株)数馬酒造	代表取締役
小出 清隆	(株)柴舟小出	代表取締役社長
志賀 嘉子	(株)ウフフ	代表取締役
四十万谷 正和	(株)四十万谷本舗	専務取締役
車多 一成	(株)車多酒造	代表取締役社長
須田 一喜	(株)オハラ	代表取締役社長
関谷 由憲	(有)大根音松商店	代表取締役社長
高崎 憲親	北陸製菓(株)	代表取締役社長
田端 葉月	赤玉(株)	専務

IT

氏名	企業名	役職
金井 洋一	(株)PFU	執行役員副社長
木屋 満晶	(株)シーピーユー	代表取締役
小西 広恭	(株)Asian Bridge	代表取締役
志倉 喜幸	(株)ハイレゾ	代表取締役
福島 健一郎	アイパブリッシング(株)	代表取締役
福永 泰男	サイバーステーション(株)	代表取締役社長
本造 雅美	(株)ユニークポジション	代表取締役
三谷 忠照	三谷産業(株)	代表取締役社長
山本 雄貴	(株)ドローンショー	代表取締役
横山 信太郎	(株)横山商会	代表取締役社長

10年後の地域の姿（事務局案・議論のベース）

『幸福度日本一の石川県』

住み
やすさ

働き
やすさ

活力
あふれる

石川県全体の姿

- 地域等のコミュニティ・生活サービスが暮らしと仕事を支える**共助の社会**
- 豊かな自然に囲まれ、子育て・医療福祉・教育などの生活環境が整い、稼げる仕事がある**幸福度の高い県民生活**
- 日本の中でも**質の高い文化と豊富な観光資源**を有し、国内外からの関心がさらに高まる
- **高等教育機関**の充実に加え、取り組みが高度化し、社会・産業など様々な観点で**地域に貢献し続ける**
- **陸海空の交流インフラ**が一層充実し、移動・物流など利便性が向上、デジタル化も相俟って、**県外とのつながりがより密接に**

能登地域の姿

- 生物多様性が守られた伝統的な農耕漁法、これにまつわる祭礼など地域文化や、里山里海の豊かな自然に囲まれた**日本の原風景**が守られる
- 少子高齢化や人口減少が進む中、**社会基盤を支える事業の先進地域**として、SDGsの観点から注目

金沢地域の姿

- 加賀百万石の**伝統文化と現代文化が共存し、高度に融合することで新しい価値が生まれる**
- **高い知名度と豊富な観光資源を有する観光都市**として、国内外から多くの人々が訪れる
- 北陸有数の都市として本社機能、サービスがさらに集積

加賀地域の姿

- 県内随一の**ものづくり産業の集積**が県内産業の成長をけん引
- 北陸新幹線県内全線開業も相俟って、白山や温泉郷などの地域の魅力が再発見され、**産業観光**も含めた観光が地域全体で活発化

競争力の高い産業モデル（事務局案・議論のベース）

① いしかわ型のデジタル製造モデルの実現

産業における徹底した自動化・最適化が、人手不足の制約を打破。

さらに、強みである機械・繊維・伝統産業などの企業集積において、企業間の情報がデジタルで高度に結びつき、連携体として顧客への迅速柔軟な提案力を発揮する「いしかわ型のデジタル製造モデル」が実現している。

② 炭素繊維等でのグローバルプレイヤーの輩出

繊維産業・機械産業の協力による国内トップレベルの炭素繊維等複合材料の国内随一の研究・生産拠点が、国内外のプレイヤーと連携し、モビリティ・エネルギー・航空宇宙等のグローバル市場に進出。

また、海外展開や知財戦略等のノウハウが普及し、グローバルニッチトップが多数輩出されている。

③ 産学連携等による絶え間ない新事業の創出

高等教育機関の集積等が企業との共同研究や大学発スタートアップを促進。

また、社会サービスに関する多様なデータがデジタル基盤等を通じて活用可能となることで、医療・ヘルスケア・教育・スポーツ、地域交通、防災などあらゆる分野において、新たな技術・商品・サービスが創出されている。

④ 唯一無二の文化力による誘客と付加価値の最大化

深い歴史と自然環境の中で育まれた唯一無二の伝統文化・食文化が、誘客のみならず、商品・サービスのストーリーとして一体的に発信され、国内外から訪れる多くの方々に感動体験を生み出し、付加価値が最大化。

大規模な展示会・見本市やMICE・クルーズ等がビジネス・観光客増加の梃子となり、経済交流が活発化している。

⑤ 骨太な中小企業・小規模事業者による社会活性化

中小企業・小規模事業者の経営や働き方が、支援機関のきめ細かな伴走支援により、デジタルやコト消費などの新たな時代の要請に対応して骨太化し、県民生活や社会サービスを支え続ける。

県内外の若い世代や外国人、女性・高齢者にとって魅力のある働く場となり、新たな世代へのバトンパスが進んでいく。

⑥ 地域ごとの特性を活かした産業集積の発展

能登地域を中心としたサステナビリティ、金沢地域を中心としたコンテンツ・クリエイティビリティ、加賀地域を中心とした産業クラスターなどをといた地域の特徴をとらえた産業集積が発展していく。

地域に眠る多彩なコンテンツが発掘・発信され、地域の価値がより高まる。

⑦ 活発なリスキングを通じた人材の活躍

デジタルが人材ニーズを大きく変化させていくなか、時代を捉えた知識・能力の習得に向けて、集積する高等教育機関をはじめ産学官が連携し、あらゆる世代にリスキング機会を提供し、多彩な人材が活躍している。

●競争力の高い産業モデル全般

- 目指す産業モデル7つあるが、本当に注力するものとそうでないものが混ざっているとされる。本当に注力するのは「重点産業モデル」と呼んで3つ程度に絞り、その3つに8割の投資をかけ、残り4つの産業モデルは2割の予算で施策を実行するぐらいのメリハリが必要ではないか。（IT）
- 注力ポイントをしっかり決めて、そこに集中投下していく方がいい。それ以外は切り捨てではなく集中投下と、逆に助け舟を出す業界を明確に絞り、県としてのこれからの道筋を決めた方がいい。（繊維）
- 石川の地でビジネスをしたいという魅力がとても大事。そのための看板となっていく企業や仕組みがなくては、人材獲得もままならなくなる。長期的には、優秀な学生がこの地に残りたい/来たいと思える地を創ることが大事（IT）
- 『幸福度日本一の石川県』について、誰にとっての幸福度なのだろうと考えさせられました。石川県に住んでいる県民？石川県？大企業？中小企業？誘致する企業？一人当たりのGDPという指標で幸福度を判断することが、合っているのかどうか、じっくりこなかった。基本的なことだと思うが、全ての子どもが色々な経験・交流をしながら、のびのびと育っていける地域づくりが必要ではないか。（機械）

①いしかわ型のデジタル製造モデルの実現

- 高い技術や独創的な技術が得意であったとしても、それを他のものと組み合わせてトータルなサービスとして仕立て上げるには大企業でない限り一社ではできなくなっている。不足する部分は他社に頼りたいが石川にはいないし探し出すことは簡単ではない。それを見つけて**複数の企業を連携させてサービスとして仕立てるところには商社的な役割が必要。そのような役割を果たす企業を引き込む工夫が施策の推進には必要**となるのではないか。（IT）
- サプライチェーン全体をいかに地産地消化することがポイントだと考える。そのための**プラットフォーム的役割において、石川県が入れれば、**いわゆる中抜きがなくなり、**よりコスト・生産性が高い水平連携ができる**と考えております。（繊維）
- まず人手不足や資材高騰による収益の低下を**デジタルの活用で作業のムダを無くし、生産性を上げ、安定した経営が出来るようになる**こと。その**具体的な良い例を3分の動画で分かりやすくまとめ、石川県の企業が参考にできるようにする**。良い例を提供してくれた企業や、人気のある例を提供した企業には特典を出す。
例えば、**次に取り組みたい事（夢）に対して補助金を出し、その取り組みの具体的なアイデアをまたみんなで共有**できるようにする。そのような情報をみんなで共有し、切磋琢磨したいと思う**石川県の企業が集えるプラットホーム**があれば良いと思う。そのなかで各企業の困り事や挑戦したい事等も情報共有し助け合えるようにできればよい。
さらに、**このプラットフォームにより、産学での情報共有ができればよい**（機械）

②炭素繊維等でのグローバルプレイヤーの輩出

- 日本の高い技術力と円安を活かして、積極的な海外展開を図る中小企業を支援する制度の拡充。
(機械)
- 小企業としては、ビックカンパニーが扱う炭素繊維事業が全く馴染みがない。 (繊維)
- 炭素繊維というのは一つのファクターかと思う。問題は、いかに、新素材を組み合わせた産業構造を作るかによる。ただし、ここでのポイントは、小さいビジネスに石川県が入る必要はほぼないと思う。そういう意味では、炭素繊維などのグローバルサプライチェーンは努力は必要なのだと思うが、逆に、炭素繊維レベルだと、県でできることとしても大きすぎる気がする、よって、間くらいのビジネスでよいものがあれば (繊維)
- 現在の円安で、原料高、エネルギーコストアップですが、エネルギーコストアップは、世界中同じなのだから輸出案件を増やして金沢港から輸出するのは、有効だと思います。石川県内の繊維産業の技術レベルは高いのですが分業化が定着していて、最終製品自体を販売出来ていない状況です。業者間の繋ぎの紹介等を県、組合、協会が出来ると良いと思います (繊維)

③産学連携等による絶え間ない新事業の創出

- 石川（金沢）が大都市ではなくコントロールしやすい規模の町であり、来たくなる魅力的な町であることを活かし、新たなサービスの実証実験の特区として新サービス創出を促進・支援していくことが有効ではないか。（IT）
- ベンチャーからさらに小分類として「シード」「アーリー」「ミドル」「レイター」で区分けしてサポートする形はあまりどこの行政もやっていないのでおもしろいかと（IT）
- 既存のプレイヤーが石川県の場合、他県よりも割としっかりしているので、事業継承や、産業内新規事業をいかに、産学官連携で作りに出していくかの方が大事かと。マザーズの状況（今はグロースに変わってしまったが）を見ても、実際には6割の企業が赤字。それも売上逡増型ビジネスでない、ビジネスモデルの企業も赤字になっているような体質赤字の企業も多く、ファンドと創業者利益を出すだけのキャッシュマシーンというか、オモチャとなっている体もある。ですので、むしろ地場の事業体などに新規事業を立ち上げさせるかというところの方がポイントの気がします。（繊維）
- 石川県で創業すること自体のハードルはコスト面含め低いといえる。そういった意味でも、創業支援よりも事業スケール支援があった方がよい。県などの取組で必要なサービスが存在するときは積極的にリスクをとって導入するなど支援の一つかと思います。富山県ではそういった取組も。また、外部企業が地方進出するときの課題である現地責任者探しに、起業マインドをもった人と繋ぐ取組があると面白いと思います（IT）
- IT、繊維、食品、機械の分野の方々が今回の意見交換会に参加されているが、教育、サービスなど他の分野も含めて、異業種の交流が新たな発見や課題解決につながると思う。異業種交流といっても、よくある食事会ではなく、テーマを決めて集まったの意見交換や情報共有など、、、。（機械）
- テーマに沿った情報共有の場があると、産業間連携が生まれやすいのではないかと思います。（機械）

④唯一無二の文化力による誘客と付加価値の最大化

- 兼六園・金沢城・東山・九谷焼といったところからもう少し広範囲に文化とか地域を広げたほうがいいんじゃないかと思います。メジャーなところばかりをつなげてもプレイヤーの広がりには限りがあります。（食品）

⑤骨太な中小企業・小規模事業者による社会活性化

- 全ての中小企業・小規模事業者が、支援機関のどのようなきめ細やかな伴走支援によって、県民生活や社会サービスを支え続けるのか想像ができない。（機械）
- 骨太な中小企業の意味合いを自分は2つだと認識している。
1. 健全なバランスシート 2. 持続成長できるビジネスモデル。これは、どちらかという
と、会社のトップの価値基準なので、なかなか県が手を出せるところではないと思う。
むしろ質素倹約・質実剛健などの教育の方が大事かもしれない。逆に県が補助金で必要以上にジャブジャブにしてしまうと、それは骨太とは言えなくなるのでは？（繊維）
- 単体のテーマや事業ごとに設けられている補助金や支援制度が多いが、中小企業は人材も場所（スペース）も限られている中で新規事業や新商品などの開発や社内構造の転換を進めており、それぞれリンクする部分が多々あるのが実情。
大きく会社としてのポテンシャル（利益率や伸び率、雇用の状況など？）を評価する基準をもってそこをクリアする会社自体を支援するような思い切った補助事業があっても良いかもしれない。（食品）
- 骨太な中小企業・小規模事業者の定義を明文化し、数値的な指標があれば参考になります。その基準をクリアすると認定を受けたり、補助金で加点になる等があれば嬉しいです。働きがいの切り口でも県公認の認定制度などがあると採用時にPRしやすくなります。（食品）

⑥地域ごとの特性を活かした産業集積の発展

- 集積できる場所だけが発展するようなイメージを受けますが、それでいいというのもアリですね。（食品）
- AIや画像認識など最先端の分野が新たに適合する地域もあるはず、そういった**最先端産業の集積もできないか**検討することはよいかと思います。（IT）
- 弊社が位置する能登においてサステナビリティを地域の特性とされることに共感します。**方針として明確に広く打ち出して頂けるとよりサステナビリティへの取り組みがしやすい**です。（食品）

⑦活発なリスキングを通じた人材の活躍

- リスキングのための講師を企業から出してもらうような工夫があるとよいのではないかと（ベテランの活用など）（IT）
- 継続的な教育をいかに県として施していくかだが、3タイプいるとっていて、
1. 勝手に学ぶタイプ 2. 学ぶ気はあるが、今までやってきたことが通用しなくなって、再度のスキルアセット構築が必要なタイプ 3. そもそも学ぶ気が薄いタイプ
そこははっきり分けて、1にはさらなる深い機会の提供 2には、どのようなスキルが必要なのかの啓蒙 3には生活や社会参画において教育の重要性を理解してもらう。それぞれをはっきりとセグメントを区切って教育を施すようにしたらよいかと。そして、個人的には、2がポイントとなると考えているので、そこを手厚く教育機会を県が用意することがポイントだと思います。（繊維）
- 高度な技術開発の教育も大事だが、それらを社会にどう実装するのが適切なのかを学び直すことも大事。そのあたりを産業と対話しながら作る、もしくは産業主導でカリキュラムを一緒に作っていくぐらいやってもいいのかも（IT）
- リスキングの機会が提供されることは有難いですが、リスキングの先の着地点が石川県であるための施策が必要なのではないかと思います。（機械）
- 県が主導してリスキングプログラムを企画し、継続的に推進する（IT）
- 石川県で働くことの魅力を積極的に発信し、新卒・中途を含めて、人が集まりたくなる様な施策とPR活動が必要（機械）